

探しています！

2026（令和8）年は、昭和満100年ということで、キウスの昭和期の発掘調査に関わった方々に焦点を当てた企画展「キウスのヒトー昭和の発掘に携わった人々」（仮）を夏に開催します。そこで、千歳市埋蔵文化財センターでは現在、キウス周堤墓群の昭和期の発掘に関わった方々を探しています。

写真：1号周堤墓（吉田裕吏洋氏 撮影）

キウス調査史

- 1917（大正6年） 第1次調査。北海道庁技手たちによる遺構実測と発掘調査
- 1935（昭和10年） 第2次調査。測量調査。
- 1949（昭和24年） 第3次調査。千歳市在住の長見義三氏が試掘調査。
- 1964・1965（昭和39・40年） 第4次調査。北海道大学の大場利夫氏、千歳市中央小学校校長の石川徹氏が主導する発掘調査。
- 1965（昭和40年） 国道337号の道路拡幅工事で4号周堤墓脇の土坑墓1基を確認。
- 1968（昭和43年） 奈良文化財研究所による測量調査。
- 2013（平成25）2017（平成29） 千歳市教育委員会の発掘調査。14号周堤墓発見。

この発掘で、「縄文時代の墓」であることが実証！

問い合わせ・情報提供

千歳市埋蔵文化財センター
千歳市長都 42-1

☎(24)4210

発掘に関する情報をお寄せください

さとう きいち
佐藤 希一

千歳市埋蔵文化財センター

中央地区にある「史跡キウス周堤墓群」は、令和3年に「北海道・北東北の縄文遺跡群」として世界文化遺産に登録されました。キウスが「縄文時代のお墓」であることがわかったのは、昭和期に行われた発掘調査の成果によりです。キウスが日本、そして世界に誇る縄文時代最大級のお墓として名を馳せることができているのは、かつてキウスに関わった方々が、地面に残る巨大な凸凹を無下にせず、調査し、記録し、歴史上大事なものとして大切に残してきてくれたおかげです。

当時の発掘の様子を直接お伺いし、記録させていただき、企画展を通して市内外の皆様にキウスの足跡を知ってもらいたい。キウスの発掘に関わった方の生声は、大変貴重な記録であり、市の歴史を語るうえでも欠かせない財産となります。未来へ向けてキウスの記録を保存、活用していくために、皆さんのお力が必要です。



第4次調査について

1950（昭和25）年、キウスから南へ2km離れた畑から石柱が発見され、北海道帝国大学教授だった河野広道がキウス7号周堤墓（史跡外）の土坑墓1基を調査しました。河野自身は1949（昭和24）年に斜里町の朱円栗沢遺跡を調査し、縄文時代の墓「環状土籬（周堤墓の別名）」を発見していたため、7号周堤墓も同様の墓であると判断しました。

この調査結果を受けて、1964（昭和39）年に北海道大学医学部講師の大場利夫氏と千歳市中央小学校校長の石川徹氏によって、キウス地区にある巨大な土手の上と内側（1号周堤墓・2号周堤墓）の調査が行われました。発掘には、千歳市文化財調査委員、千歳高等学校と中央中学校の教師や生徒、陸上自衛隊第7師団、千歳市中央小学校PTAなどの方々が携わられたようです。

発掘調査では、キウスの土手の上に約2500年前に降灰した樽前山の火山灰が堆積しており、キウスの土手がそれより以前、縄文時代に築かれたものであることが分かりました。1号周堤墓で5基の土坑墓、2号周堤墓で1基の配石墓が見つかったほか、縄文時代終わり頃の土器、石器、土偶なども見つかりました。

周堤墓（環状土籬）：縄文時代終わりごろ（今から3200年前）の集団墓。土手で囲まれた内側や土手の上などに、複数のお墓が設けられる。一般的な大きさは直径10～30mほどだが、キウスでは直径50m以上のものが群集し、大きいもので直径83m（1号周堤墓）、高さ4.7m（2号周堤墓）のものがある。／土坑墓：土を掘って遺体を埋めた墓。土坑墓の上に石が置かれている場合は、配石墓とも呼ばれる。／石柱：土坑墓の上に立つように埋められた石。墓標のような役割を持っていたと考えられる。

昭和期の発掘調査に関する

情報求む！

千歳市埋蔵文化財センター所蔵の当時の調査写真を公開

発掘に参加して写真に写っているご本人様はもちろん、家族が参加していた、友達が行ったと言っていた気がする、写真に写っている人に見覚えがある、学校・職場に発掘のお知らせが来ていたような…など、なんでも構いません。キウスの発掘に関する情報をお待ちしています。

主にこの時期の調査当時の様子を知る方を探しています！



1964（昭和39）年の1号周堤墓調査 集合写真



1964（昭和39）年の1号周堤墓
石柱検出時の様子



1964（昭和39）年の1号周堤墓 調査風景

／待ってます！／



ほかにも調査風景の写真や、参加者の氏名が記された報告書がありますので、気になる方は直接お越しいただくか、お気軽に埋蔵文化財センターまでご連絡ください。



1965（昭和40）年の2号周堤墓 調査風景（中央が配石墓）